

第 32 回 BC 州日本語弁論大会
2020 年 3 月 14 日(土)
優秀作品集

BC 州日本語弁論大会実行委員会

この作品集は、参加者原稿を元に BC 州日本語弁論大会実行委員会が編集したものである。

第 32 回 BC 州日本語弁論大会

日時: 2020 年 3 月 14 日 土曜日 午前 10 時～17 時

場所: ブリティッシュコロンビア大学 (UBC)

実行委員会:

Dr. Rebecca Chau (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

Dr. Saori Hoshi (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

Dr. Ihwa Kim (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

司会者:

Kyoko Kataoka, UBC & Mason Leung, UBC

審査員:

高校部門

Ms. Tomoko Bailey (JALTA)

Ms. Naoko Hall (Kiyukai)

Ms. Grace Ho (R.A. McMath Secondary School)

Ms. Mari Miyamoto (West Vancouver Secondary School)

大学・一般部門

Mr. Kazuhiko Kadono (Listel Hospitality Group)

Dr. Tomohiko Nezu (Ritsumeikan University)

Ms. Kaori Tanaka (UBC)

Mr. Naoki Watanabe (Konwakai)

Dr. Christina Yi (UBC)

出場者:

「高校部門 初級」

- 1 Segeon Jang
食べ物をもだにする行為
Sir Winston Churchill Secondary School
Food Waste
- 2 Li (Leo) Lei
日本語を好きになったきっかけ
Johnston Heights Secondary School
Why I Want to Learn Japanese
- 3 Hei Tung (Sabrina) Luk
愛は永遠?
Burnaby North Secondary School
Love is Forever?
- 4 Chang Qu
お盆
Sir Winston Churchill Secondary School
The Obon Festival

「高校部門 中級」

- 1 Breanna Lu
すべてに感謝
Burnaby North Secondary School
Thank You for Everything
- 2 Rebekah Wong
引きこもり
Sir Winston Churchill Secondary School
Hikikomori

「高校部門 オープン」

- 1 Nicolas Daichi Kobiyama
言語とアイデンティティー
École Secondaire Jules-Verne
Language and Identity
- 2 Nithila Theivendrarajah
夢への第一歩
Sir Winston Churchill Secondary School
Taking the First Step to My Future

「大学・一般部門 初級」

- 1 Angela Chuang
わがまま UBC
Selfishness
- 2 Edmond Chung
季節のパレット Langara College
Season's Palette
- 3 Louis Coustets
歴史の重要性 UBC
The Importance of History
- 4 Rachel Shi
橋を架けよう UBC
Let's Build a Bridge
- 5 Tianyi Wang
私の好きな場所 SFU
My Favourite Place
- 6 Tongzhe Zhang
マスク Langara College
Mask
- 7 Zifan Zhang
コールドシャワーの挑戦 UBC
Cold Shower Challenge

「大学・一般部門 中級」

- 1 Dakota Anderberg
ファーストネイションの言語と文化 UBC
First Nations Language and Culture
- 2 Gabrielle Che
一人ではダメですか UBC
Why Can't We Be Alone?
- 3 Shoni Coyle
十分な私 UBC
Who I Am Is Enough
- 4 Aadam Fakir
お金持ちになりたくない UBC
I Don't Want to Be Rich
- 5 Chiao-Chen (Shannon) Hsu
蒼い炎 UBC
Blue Flames
- 6 Zheyue (Charlotte) Hu
期待に頑張っ**て**応えている女性達 UBC
Women Who Try Hard to Respond to Expectations

- | | | |
|----|-------------------------------------|---|
| 7 | Catherine Jiang
光に向かって | UBC
<i>Strive to Shine</i> |
| 8 | Hiu Ngai Lam
役に立たない夢 | UBC
<i>Useless Dream</i> |
| 9 | Bob Emmanuel Mulamba
日本語頑張ります | SFU
<i>I Will Do My Best In Japanese</i> |
| 10 | Jean-Luc Pereira
私はシャイボーイではありません | SFU
<i>I Am Not a Shy Boy</i> |
| 11 | Ryan Sum
戦うキング | UBC
<i>A Fighting King</i> |
| 12 | Kim Zhou
受け取る心 | UBC
<i>The Heart of a Receiver</i> |

「大学・一般部門 上級」

- | | | |
|---|----------------------------|--|
| 1 | Miradee Chua
その瞬間に物語を | UBC
<i>Frame the Moment</i> |
| 2 | Xiuyi Liu
自分という小さな花火 | UBC
<i>The Fireworks</i> |
| 3 | Jiahao Niu
ピンクとブルー | UBC
<i>Pink and Blue</i> |
| 4 | Danyi Zhu
無常を楽しむ | UBC
<i>Have Fun in the Impermanence of Life</i> |

「大学・一般部門 オープン」

- | | | |
|---|-----------------------|--|
| 1 | Elliot Fang
本能に任せて | SFU
<i>Leave It To Your Instinct</i> |
| 2 | Leslie Ho
女性の敵は女性 | SFU
<i>Women Can Be Their Own Enemies</i> |

- | | | |
|---|----------------------------|--|
| 3 | Erin Wu
孝行の仕方 | UBC
<i>The Way of Filial Piety</i> |
| 4 | Jing Zhen Yu
死んでも生き続けます | 一般
<i>I Will Still Be Alive Even When I Die</i> |

入賞者:

「高校部門」

初級

- | | | |
|-----|---------------------------------|--|
| 第1位 | Hei Tung (Sabrina) Luk
愛は永遠? | Burnaby North Secondary School
<i>Love is Forever?</i> |
| 第2位 | Chang Qu
お盆 | Sir Winston Churchill Secondary School
<i>The Obon Festival</i> |
| 第3位 | Li (Leo) Lei
日本語を好きになったきっかけ | Johnston Heights Secondary School
<i>Why I Want to Learn Japanese</i> |

中級

- | | | |
|-----|----------------------|---|
| 第1位 | Breanna Lu
すべてに感謝 | Burnaby North Secondary School
<i>Thank You for Everything</i> |
|-----|----------------------|---|

オープン

- | | | |
|-----|---|--|
| 第1位 | Nicolas Daichi Kobiyama
言語とアイデンティティー | École Secondaire Jules-Verne
<i>Language and Identity</i> |
|-----|---|--|

「大学・一般部門」

初級

- | | | |
|-----|----------------------------|-------------------------------------|
| 第1位 | Rachel Shi
橋を架けよう | UBC
<i>Let's Build a Bridge</i> |
| 第2位 | Zifan Zhang
コールドシャワーの挑戦 | UBC
<i>Cold Shower Challenge</i> |
| 第3位 | Tongzhe Zhang
マスク | Langara College
<i>Mask</i> |

中級

- | | | |
|-----|-------------------------------------|---|
| 第1位 | Kim Zhou
受け取る心 | UBC
<i>The Heart of a Receiver</i> |
| 第2位 | Chiao-Chen (Shannon) Hsu
蒼い炎 | UBC
<i>Blue Flames</i> |
| 第3位 | Jean-Luc Pereira
私はシャイボーイではありません | SFU
<i>I Am Not a Shy Boy</i> |
| 努力賞 | Catherine Jiang
光に向かって | UBC
<i>Strive to Shine</i> |
| 努力賞 | Bob Emmanuel Mulamba
日本語頑張ります | SFU
<i>I Will Do My Best In Japanese</i> |

上級

- | | | |
|-----|-------------------------|--|
| 第1位 | Danyi Zhu
無常を楽しむ | UBC
<i>Have Fun in the Impermanence of Life</i> |
| 第2位 | Jiahao Niu
ピンクとブルー | UBC
<i>Pink and Blue</i> |
| 第3位 | Xiuyi Liu
自分という小さな花火 | UBC
<i>The Fireworks</i> |

オープン

- | | | |
|-----|----------------------------|--|
| 第1位 | Erin Wu
孝行の仕方 | UBC
<i>The Way of Filial Piety</i> |
| 第2位 | Elliot Fang
本能に任せて | SFU
<i>Leave It To Your Instinct</i> |
| 第3位 | Jing Zhen Yu
死んでも生き続けます | 一般
<i>I Will Still Be Alive Even When I Die</i> |

愛は永遠?

ここに動物愛好家はいますか？特に愛犬家はいますか？私は 6 歳のときに世界で一番かわいい犬に出会いました。彼の名前はウィリーで、母がなづけました。私はウィリーが初めて家にきた日をよく覚えています。そのとき、まだ子犬で、怖がっていましたが、私がないとき、彼はソファからゆっくりでてきて、私の手をなめて、私をなぐさめて、私に勇気を与えてくれました。

10 歳のとき、私は母とウィリーと一緒に香港からカナダに来ました。もちろん、私たちはカナダについてなにも知りませんでした。ベッドもかわり、食べ物もかわり、水の味もかわり、すべてがかわりました。しかし、散歩の時間をもっとつくることが出来ました。すべてをウィリーと共有しました。母すら知らない 2 人のひみつもありました。

4 年前、台湾に祖母を訪ねたときに、ウィリーを母の友人にしばらくあずけました。ある日、母が「アイスクリームを食べる？」と私にききました。私はそのことばがへんだとおもいました。なぜなら母はいつもそんなことを言わないからです。アイスクリームを食べている私に母が「ウィリーは車にひかれた」と突然言いました。つぎの 3 秒で、私が考えた唯一の事は「彼と過ごす時間はもう来ない」ということでした。私は泣くのをとめることができませんでした。

2 時間泣くと眠りに落ち、目覚めると、また泣いてしまいました。母は私を慰めましたが私の涙を止めることはできませんでした。まるでナイフが胸にささっているように感じました。そして泣きすぎて呼吸困難にもなりました。

ウィリーは私に愛とは何かを教えてくださいました。ウィリーにはとても感謝しています。死はさけられませんが、死がくるまでお互いの時間を大切にすることはできます。私たちはつねにつながっていて、このつながりはうしなわれることはありません。私はすべてのペットに感謝の気持ちを捧げたいです。ここにいるペットも、もういないペットも、愛するペットに対する私達の愛はいつもここにあり、一生消えることはありません。

お盆

私のなまえは Chang です。チャーチル高校の学生です。

きょうは日本と中国のおぼんについてはなします。

人の霊に関する行事がたくさんあります。特に、亡くなった家族や友人のことを考えるための祭りが多いです。

日本ではおぼんという祭りがありますが、日本人にとって大切な行事です。

お盆になると人は仕事を休みます。その時間を使って墓参りをします。

仏教の話によると、Siddhartha Gautama に弟子がいました。弟子は仏教の勉強に成功したことをお母さんに報告をし、今まで育ててくれたことに感謝していると伝えたかったそうです。

しかし、母親が餓鬼道にいることがわかりました。餓鬼道にいる者はお腹がすいても食えることができません。とても苦しい所でした。

母親を助けたかったので、盂蘭盆会を開きました。そして、他の仏教徒の手を借り、母親を助けることができました。

その後、お盆は七月十五日になりました。亡くなった人が地獄から降りて、家族から敬意を受ける日になりました。

お盆にはたくさんの伝統があります。

夜にはちょうちんの明かりをつけて、亡くなった人の帰り道を照らすようにします。

亡くなった人のために特別な食べものを用意します。精霊馬も作ります。

精霊馬にはキュウリとナスの2種類があります。

キュウリで馬を作ります。霊が早く家族のところに来ることを意味します。そして、ナスで牛を作ります。ゆっくり地獄にもどることを意味しています。

日本のお盆は中国から来ました。

しかし、日本のお盆ほど重要ではありません。

亡くなった家族に二セのお金を燃やして送る習慣があります。

しかし、大気汚染のため、多くの方はもうこれをやめています。

中国の一番有名な祭りは清明節りです。

家族みんなで墓参りや旅行をする祭りです。

このような祭りを祝う理由は家族のことをおぼえ、祝福を受けたいからです。

なにより大切なのは命の大切さを心にとめておくことです。

日本語を好きになったきっかけ

みなさん、こんにちは、私はリーオです。どうぞよろしくお願いいたします。
どうして日本語を勉強しようと思ったか、僕はずっとその理由を探し続けています。私が日本語を勉強する理由はたくさんあります。日本語と中国語はたくさん似ている事や違うことがあります。例えば、同じ字なのに意味が違ったり、字の成り立ちが同じの場合もあります。このようなことから日本語に興味を持ち始めました。

カナダに来たら英語を学び、ほかの言語を学ぶ楽しさを感じ得られました。だから、日本語を学ぼうと決めました。私は一年前からカナダの高校で日本語を習い始めました。中国からカナダに来た時、全然日本語を知らなかったし、私にとっては、平仮名も片仮名も全然わかりませんでした。初めて日本語を勉強しても、全然面白くないと思いました。その時、私は自分に問いかけました「なぜ五十音を覚えられないかと」。言語を学ぶことは長くて苦しい過程であります、無限の言葉と複雑な文法に直面するにあたって多くの忍耐が必要だと思います。もし、何かにつまずいて、物事がうまくいかなく、苦しんで自信がない場合は、元のポイントに戻って考えてみることをお勧めします。

私はかつて日本語学習をあきらめたいと思っていました。しかし、徐々に日本語を学んでいくうちに、日本語に興味を持ち出しました。日本語の魅力は、単語の書き方が中国語と一緒に意味が全然違うからです。たとえば、お酒に店と書いて、「酒店」日本語では、お酒を売る店と意味します、でも中国語で酒店とは、日本でいうホテルです。他には、手紙と言う単語に関しては、日本語では文章などを書いて他人に送る紙のことです。しかし、中国語ではトイレットペーパーという意味があります。

いま、学校で日本から来た学生に数学を教えています。そういうときにも数学用語で日本語と中国語の意味も書き方も一緒の字が出てきます。例えば 因数分解や四捨五入や平方関数。日本語を勉強にするにあたって重要な理由はやっぱりアニメを見るときに字幕や翻訳に頼ることがないといことです。

どうして日本語が好きですか？これからもこの回答を探しながら、日本語を勉強し続けていきます。

ご清聴ありがとうございました。

すべてに感謝

わたしの世代では、多くの人が感謝を忘れて生きています。まだ若いので、極度に自己中心的です。目の前のことだけを考えてしまうのです。私もその一人です。だからこれまで、両親が私のためにしてくれたことなどまるで気づきませんでした。ところが、あることがきっかけで、かんしゃについて深く考え始めました。

両親の過去に出会ったのです。ある日、ガレージでカナダに到着したばかりの父の家族写真を見つけました。私はふと興味本位で、父にカナダに来た経緯を話してくれるようにせがみました。父が子供の頃、彼が住んでいた国で戦争が始まりました。ベトナム戦争です。1975年に戦争は終わりましたが、共産主義の国に変わったあと、南ベトナムにいた父達中国人は共産主義から逃がれ、マレーシアの難民キャンプへの危険な航海に出ることを余儀なくされました。船は混雑し、汚れていて、多くの人々が生き残れないと恐れていたのです。航海は非常に怖かったそうです。船に乗って 4 日後、父と彼の家族はマレーシアに到着し、難民キャンプに 1 か月滞在した後、マレーシアから、ついにカナダに行くことができたのです。おくれること 5 年、ラオス人の母の家族はなんかしよかのひなんキャブを 4 年わたりあるき 1984 年ついにカナダにつきました。

この話を聞いたとき、私はショックを受けました。私は父がカナダに来るために経験した困難を知りませんでした。すぐに、母と父がどれほどくろうしたかをしり、私がカナダのような平和な国に住むことができるのは、そのこんなんをのりこえたけっかだったことを知ったのです。今、私は両親がカナダに来てから良い生活をするためのどりよくをすべて理解しているので、心から感謝しています。

父の話を書く前は、私は未熟で無知でした。また感謝の気持ちが足りなかったと思います。以前とは対照的に、今は自分の家、着ることが出来る服、母が料理する食べ物に感謝しています。こんなことわざがあります。「孝行をしたい時分に親はなし」と。そうならないうちに両親のくろうをしり感謝できてよかったです。いまはすべてに感謝することができます。

「言語とアイデンティティー」

最近僕は日本のパスポートを更新しました。出来上がったパスポートを友達に見せた時「その顔で本籍が宮城県で面白いね」と言われました。確かに、僕の外見は日本人らしくはありません。ですがメンタリティーは日本人的な部分が強く、それが僕の個性にもなっています。生まれも育ちもバンクーバーなのにどうしてなのかと考えてみると、やはり日本語を話せるということが僕の人格形成に大きな役割を果たしているのではないかなと思えてきました。そこで今日は、僕の考える言語とアイデンティティーの関係についてお話ししたいと思います。

僕にはフランス、クロアチア、カナダ、日本の血が流れています。フランス人の父とはフランス語、日系人の母とは日本語で話し、友達とは英語で話しています。そんな僕が自分のアイデンティティーについて考える時、フランス、カナダ、日本の 3 つの文化や考え方の融合体が思い浮かびます。ところがクロアチアに関しては、言葉が話せないためその様な認識が持てません。「言語は文化そのもの」と言うように、人間は言語を通して文化を知り、その文化が考え方や生き方にも深い影響を与えるのだと思います。

移民の方がカナダで子育てをする際に、自分の母国語ではなく英語で子供と話すことが多いのは、とてももったいないことだと思います。なぜなら、子供は親の言語を学ぶことで家族のルーツや文化を学び、自己形成ができるからです。これには、何にも代えがたい価値があります。人間には、グループに属したいという本能があり、同じ文化的バックグラウンドを持った人達との交流は、子供に自信や安心感を与えるそうです。ある研究によると、家で親の言語を使って育てられた子供は、親との絆や自分の居場所があるという感覚をより強く感じられるため、非行に走りにくいということです。親への尊敬や、自分のルーツへの誇りも生まれやすいと言います。

もし両親の言葉を話せていなければ、僕は自分のアイデンティティーがよくわからずに、自信や自己肯定感を持てなくなっていたかもしれません。実際に、言語を奪われたカナダの先住民の中には、アイデンティティーの問題を抱えた若者が多くみられます。生きづらさに苦しむ若者の、アルコールドラッグ中毒や鬱病が深刻な社会問題となっています。とても悲しいことです。これを重く見たカナダ政府は、2019 年に先住民の言語を保護する新しい法律と政策を打ち出しました。言語が健全なアイデンティティーの確立に不可欠であるということが認められたのでしょ。

世界には約 7000 もの言語がありますが、今世紀が終わる前にその半数近くが絶滅してしまうと考えられています。アイデンティティーを豊かに形成する言語は、人類の財産です。人類の多様性のためにも、誰もが誇りを持って自分の言語を話せる社会にしていきたいものです。

橋を架けよう

“私もそう思います”この言葉はよく使います。特に周りの人と意見が違ふ時、私は自分の本当の意見を隠して、黙って、ただ聞いています。ちょっと後悔して、どうして自分の考えを伝えられなかったのか、と思う時もあります。でも、少数派が多数派に従うのは社会のルールだと思っていました。自分だけ違ふ意見を持っていることもあります。でも、それを言ったら、他の人を困らせてしまわないか心配になります。だから、だんだん自分の声が見つからなくなってしまうました。

でも、ある日、“空気を読む”という言葉を知って、私は目が覚めました。それまでどうしてわたしがちゃんと自分の意見を言えないのかと考えたことがありませんでした。今考えると、それは周りの人に空気を読めないと思われるのがいやだったからだと思います。

確かに、この世界で生きていれば、空気を読まなくてははいけません。例えば、散歩している時、隣のおじいさんのかつらが急に風に吹き飛ばされてしまいました。空気を読む人は、おじいさんはたぶん恥ずかしがっているだろうと思いますよね。だから、笑わないで、何もいわないで、ただ歩くのです。

じゃあ、そんな思いやりのある行動にどうしてわたしは困っているのでしょうか。友達と話していて楽しくて盛り上がっている時、ちょっと意見が違っても言わないで、話を続けます。例えば私はあるアニメキャラクターが好きじゃないですが、私の友達がそれが大好きだったら、私はそのキャラクターのいいところしか話しません。誰でも楽しくて、スムーズな会話の時間が欲しいので、私もこの楽しい時間を壊す人になりたくないんです。

でも、みんながこの考え方で空気を読みすぎると、困る時もたくさんありました。特にクラスของทีมプロジェクトの時です。もしみんながそれぞれの意見を言わなかったら、いい結果が出せないと感じています。同じことについて考えても、一人一人の考え方が違ふから、意見が違ふのは当たり前です。何がいい意見で、何が悪い意見かはあいまいです。だから言わないと何がいいかわからないです。もしかしたら、違ふアイデアを組み合わせれば、より良いアイデアが作成できます。

もし、それぞれの人々が一つの島なら、それぞれの島に違ふ景色があるはずで。そして、言葉が人をつなげる橋なら、自分の意見をちゃんと伝えなければいけません。そうしないと、いつも自分の景色しか見られませぬ。そんな人生はどんなにつまらないでしょう。たまには空気が読めない人だと思われてもいいです。自分の声を出して、周りの人の風景を見て、そして、周りの人にも違ふ風景を見せてあげましょう。

コールドシャワーの挑戦

私はまだ一年生ですが、どうしてもこの話をみなさんにしたくて。辞書をつかって、このスピーチを書きました。

クラスの始まる十五分前に、まだベッドに横たわっていて、一人で絶望的な考えを持っている。勉強したくなかったです。誰とも話したくなかったです。ただ部屋に一人でいたいだけ。実は、私はうつ病でした。

去年の八月、私は UBC に入学して、興奮していました。大学の生活を楽しみにしていましたから。しかし、大学生活はたいへんでした。私は留学生ですから、一人で生活して、勉強もする必要があります。その時、英語が、まだ苦手で、クラスメイトのジョークやスラングがよくわかりませんでした。だから、家族のことをよく思い出しました。暗い部屋に座って、携帯電話の画面で、私は他の人のカラフルな生活をスクロールし続けました。画面には、私の悲しい顔も映っていました。ソーシャルメディアに逃げて、自信も消えて…何もできませんでした。

でも、今、私はクラスでうまくやっています。良い友達もいます。普通の大学生の生活をして、ジムやイベントに行ったりしています。自信を取り戻して、もう一度自分の人生をコントロールできるようになりました。

なにが私の生活を変えたか、お話しします。それは、コールドシャワー・チャレンジでした。毎朝、私が最初にすることは、眠くても浴室に入り、おそらくその日のうちで最もクレイジーなことをする準備をします。

みなさん、シャワー室にいる自分を想像してください。冬の朝です。裸になって、深呼吸をして、なぜあなたがこの挑戦をしているのかを考えます。水を出しますが、まだ中に入りません。水が流れて、あなたの顔の回りに冷たい水の匂いがしてきます。よし、入るぞ。痛い！ ううう、痛い、痛い！ よし、今日もできた！

コールドシャワーは 30 秒でもいいのです。でも、毎日続けることが大切です。科学は、あなたがそれを望めば、毎日冷たいシャワーを浴びることで、免疫システムや呼吸機能が強化されることを証明しています。私は大学で人間の体と心の発達について学び、体にいいこの小さな習慣を始めました。簡単ではありませんでしたが、私は、自分を変えるためにやりました。うつ病から私を救ってくれたこの挑戦に非常に感謝しています。

今、多くの人がうつ病にかかっています。しかし、彼らはそれを隠しています。私もそうでした。うつ病を克服することはとても難しいです。でも、できないことはありません。たぶん、朝のシャワーから始めます。冷たくて、痛い、痛いシャワーです。

マスク

初めて日本へ観光旅行で行った時、私はあることに気が付きました。それは、周りの人がみんな病気の時にするマスクを付けているという事でした。日本では花粉症の人が多いので、みんな毎日マスクをするのだと聞きました。私も少し花粉症ですが、最近までマスクをする習慣はありませんでした。私の出身の中国では人にとって話す時にマスクをしていると失礼だし、世界中どこでもマスクを毎日して生活する事はあまりないと思います。日本を旅行して、マスクをする習慣は今では日本の生活の一部なのだと思います。

日本では若い人や女性がよくマスクをして出掛けるそうです。その理由は色々あります。例えば、マスクをすると顔を隠す事が出来るので、プライバシーが守れます。日本のソーシャルメディアでは「顔出し」をする人はあまりいなくて、フェイスブックのプロフィール写真もペットの写真だったり、花の写真だったりします。だから、マスクをしていれば、コンビニやサービスの店で顔がカメラに映る事がなくて安心です。私の友達の女の子は、化粧をする時間がなくて出掛ける時、マスクがあれば便利だと言っていました。

マスクをするもう一つの理由は日本人は「周りに迷惑を掛けたくない」といつも思っているからだと思います。日本人は風邪をひかない様にマスクをするだけでなく、自分の風邪が他の人に移らない様にする為にもマスクをします。私はきっと 2002 年の SARS の発生の時から日本ではマスクをするのが習慣になったのだと思います。

皆さんは 2020 年に入って中国で発生したコロナウイルスのニュースの事をよく知っていると思います。私はマスクをする習慣のある日本だけが世界でこの病気の感染をコントロール出来るのではないかと思います。もし全世界の人が日本人の様にマスクをすればコロナウイルスの様な病気の犠牲者も減るかもしれません。

また、日本ではマスクはみんなの物です。国や企業がみんなを守る為に無料やとても安い値段でマスクを必要な人に渡します。それに、日本のドラッグストアやマスクを作っている会社はマスクが足りなくなっている中国にたくさんマスクを提供しています。でも、中国ではマスクを買い占めて、困っている人に高い値段で売ろうとする商人がたくさんいます。普通の値段の三倍以上の値段をつける商人もいるのです。人の命とお金を交換しようとするこんな人達を私はとても残念に思います。

私は今回のコロナウイルスの問題を通してマスクを付ける重要性について学びました。余談ですが、最初のコロナウイルスの感染者が日本で見つかった時、一まとめに「中国人」と言わないで、「武漢からの旅行者」と言う言葉を使ったのは、日本人が不必要な差別を起こさない為の思いやりだったと思います。私はこのコンテストの場所を借りて、中国にマスクを提供してくれている日本人達に、ありがとうと言いたいと思います。そして、日本の思いやりのシンボルであるマスクを通して中国と日本がこれからも友情を深めて行って欲しいと思います。

受け取る心

今、世の中には極端な物質主義が流行っています。もう、10 代の女の子が親に何十万円のブランド品を買わせたり、年収一千万円以上の人だけと結婚したがる時代になりました。しかし、贈り物の価値が値段だけだったら、贈り物はデパートにある、

既に値札(ねふだ)がついている商品とどう違いますか。贈り物は、贈る側の気持ちが込められているからこそ、贈り物になるのではないのでしょうか。最近、こんなことを考えているのは、何年か前に父にもらった iPhone をもう一度見つけ出したからです。

私の出身、中国では子供も激しい競争社会にいます。私ももちろん父に勉強しろときびしく言われていました。勉強はいつも父に頼っていたので、自分から勉強しようという気持ちは一切ありませんでした。しかし、中学校に入って、いつのまにか劣等生になってしまい、優秀な父に恥をかかせてしまったと反省して、初めて塾に通うことにしました。幸い、特に苦手だった、数学の成績がだんだん上がりはじめました。

そんなある日、成績がよくなってきたことをいいことに、私は父にあるものを要求しました。それは、クラスのみんなが持っていた新発売の iPhone 4 でした。放課後、私を迎えに来た父に「iPhone 買ってくれない？」と聞いたら、父が逆に一つの条件を出しました。「期末試験の数学の成績が学年の一位になったら、買ってあげるよ。」この条件を聞いた私は、ムツとしました。「欲しいものを買ってくれないなら買わなくてもいい。こんな無茶な条件を出して私をバカにしているの？」と思いました。でも、それから、父に何度も同じことと言われ、私は約束させられてしまいました。

一ヶ月後、なんと、私は数学の期末試験で満点を取って、本当に学年の一位になりました。その日、私が父にすぐ満点が取れたと、自慢しようと口を開ける前に、父がさっと差し出したのは、最も新しく発売された iPhone 4s だったのです。それは欲しかった iPhone 4 よりも性能がいいものでした。それから長い間、私は、ずっと父が先に先生から満点を取った話を聞いて、このプレゼントを買ってくれたのだと思っていました。

しかし、実は、そうではありませんでした。後で父はそのスマホは、学年のトップになると約束した日にもう買っておいたのだと教えてくれました。娘は必ず努力するだろうと信じて、褒めてあげたかったと言うのです。この話を聞いた時、心の中にはもう喜びがいっぱいでしたが、何にも言えませんでした。最近、それを思い出して、改めて、父にプレゼントを堂々と要求した自分が恥ずかしいと思いました。

だれでも贈り物をもらったことがあると思います。好きなものをもらえるのはもちろん嬉しいですが、しかし、もらう時に、贈る人の気持ちを本当にくみ取っているのでしょうか。人は、他人に何かをあげたり、してあげる時は、必ず相手のことを思っていてやるのです。社会的な役割や仕事だからといっても、気持ちを込めてやっているに違いありません。毎日ごはんを作ってくれる両親、バスを運転してくれる運転手さん、「宿題を忘れないでね」って言うってくれる友達、それ以外にも、人は毎日様々な人のお世話になっています。こういう小さいことは、やってもらうのが当たり前だと思ったことはありませんか。知っている人でも、知らない人でも、何かをしてくれる周りの人に、私たちは感謝の気持ちを持ち、そして、それを表すべきではないのでしょうか。私は、まだ父に、ちゃんとありがとうの気持ちを伝えていませんが、これからどうやって伝えるかを考えようと思っています。

みなさんも、まだ伝えていない感謝の気持ちがありませんか。

蒼い炎

2020年2月、羽生結弦は四大陸フィギュアスケート選手権を初めて制覇しました。演技が終わった後、氷の上はファンたちに投げ込まれたプーさんのぬいぐるみでいっぱいになりました。私の心もいっぱいになりました。羽生結弦は、優雅な踊りと人の心を動かす演技で世界中のみんなを虜にしている「氷の王者」です。そして、私が最も尊敬している人物です。彼の自伝「蒼い炎」を読んで、羽生を理解し、そして自分の人生を考えなおしました。

「弓の弦を結ぶように凜とした生き方をしてほしい」、という期待を名前に託された羽生はその立派な名前にふさわしい人です。喘息を克服するためにスケートを始めて、ジュニア時代からいつも表彰台の常連でした。しかし、2011年に東日本大震災が発生、スケート靴を履いたままでリンクから逃げ出して、「もうスケートなんてやってる場合じゃない」と考えた彼は、自分の将来に対して不安になりました。けれども、コーチやファンたちからの支えにより、「自分がやれることは全部やっていこう」と決心し、羽生は日本各地で宮城復興応援のアイスショーに出演しながら、練習を再開しました。それ以来、羽生は各地の試合で、フィギュアスケートの世界記録を更新し続け、数え切れない栄光を手に入れました。

羽生は当代一の優秀な男子フィギュアスケーターとも言えますが、私が尊敬しているのはスポーツマンとしての成功だけではなく、一人の人間としての彼の生き方です。彼は非常に謙虚で強い意志を持っている頑張り屋さんで、いつも恐れず自分に挑戦しています。「いつも心を開いているんです。心を開いていなきゃ、何も吸収できないし、面白くない。心を開くことが成長の原動力」と、彼は本の中でそう言っています。以前はあまり人のいうことに耳を傾けないで、何事も自分のやり方でやってきた私は、この言葉をきっかけに、高校二年生の時に模擬国連クラブの部長になろうと決めました。暗記した羽生の言葉をつぶやきながら勇気を出して、私は候補者の中に入って、部長になりました。でも、実は挑戦はその時から始まりました。それまでずっと、自分のことだけを考えてきた私にとって、他人の意見をきちんと聞いて、それを自分の考えと合わせるのが難しかったんですが、団体のリーダーには必要なことでした。部長として、部員たちと一緒に後輩たちのために色々なイベントを開催する時、私たちは意見の食い違いで何度も喧嘩しました。喧嘩をすると毎回とても疲れて、諦めようと思う度に、私はリンクの上で何回転倒してもすぐ立ち上がる羽生を思い出します。彼は怪我と他人からの期待を背負いながら、どんな逆境に立たされても最後まで努力します。ここで諦めたら、ダメだと思って頑張った私は、部長を務めていた一年間でずいぶん成長したと思います。他人の身になって、改めて目の前の問題を考えられるようになりました。リーダーは違う角度から状況を見たり、判断しなければいけないことを、私は悟りました。行われたイベントは高く評価されて、部員たちとも仲良くなった私は様々なことを学んで、充実した高校生活を終わらせることができました。

私のように、羽生のけっしてあきらめない態度に影響を受けたファンが、その毎回氷を覆うたくさんのプーさんの数だけいるはずです。いつも、それはなんて素晴らしいことなのだろうと思って、うれしくなります。励みにもなります。羽生はよく青い衣装を着て、リンクの上で舞い上がります。まさに彼の自伝のタイトル「蒼い炎」なのです。氷の上でくるくると踊り続ける羽生は何があっても消えずに、燃え盛る「蒼い炎」のようで、私たちの進むべき道の道しるべだと思います。私は羽生にととても感謝しています。聴いて下さってありがとうございました。

私はシャイボーイではありません

ええ、こんなところに来て、信じられないと思うでしょうが、実は私、恥ずかしがり屋なんです。子供の時からずっと人見知り^{おどろ}が激しく、新しい人と話すのにいつも苦労します。正直に言うと、元々このスピーチコンテストに出るつもりは全然ありませんでした。「別に面白い話なんてないし」と思っていました。でも今ここに立っているのは、最近私の英雄とも言える人に会ったからです。その人の名はシャイボーイです。

彼は「あいのり」というテレビ番組^{しろうと}に素人として参加した一人にすぎません。知らない方々がいらっやると思うので「あいのり」について説明すると、恋愛を求める男女7人が、ピンクのミニバンに乗って貧乏旅行しながら、好きな人ができたら、プロポーズするという番組です。もし相手がプロポーズを受けとめたら、めでたく^{めでたく}日本に一緒に帰ることができますが、ダメだと一人で帰ります。シャイボーイは、その貧乏旅行の途中から参加しました。

彼が最初に出てきたとき、「この人は私みたいなんだ」ってすぐ思いました。私と同じように^{しよぶよう}に彼女いない歴が長く、二十八歳なのに仕事もうまくいっていませんでした。顔の表情も豊かで、作り笑いのようにときどき大きな声で笑います。そんな彼を見て、自分の気まずい高校時代について思い出しま^{おも}した。お互い不器用で、いじめられやすく、決してイケメンとは言えないタイプです。似た者同士なので、絶対にシャイボーイ^{シャイボーイ}の愛がかなうわけがないと思いました。きっとプロデューサーたちは笑い狙いで彼を採用したんだろうと思っはずです。

しかし、番組の中でシャイボーイは魅力的な部分をどんどん見せるようになりました。ギャグで皆を笑わせるし、ギターも上手に引けるし、何と言っても友達のことを大事^{だいじ}にしている彼の姿にみんな惹かれていきました。それを見ていて、何か私の中で違和感を感じ始めました。「なんだろう、この変な^{へんな}気持ち」と思いながら見続けました。そして最後に、シャイボーイは好きな人ができて、一所懸命彼女にアピールしました。それでもやっぱり「こんな不器用な人、絶対無理だわ」と思っていた時に、なんとシャイボーイは彼女の心を射止めて、カップルとして日本に帰国しました。信じられませんでした。ようやくわかりました。

私はシャイボーイではありません。

私たち二人は根本^{こんぽんてき}的に違う人間です。シャイボーイは私にはない大事な何かを持っています。彼は真正直で本当に純粋で、心の底から他の人を大切にします。下心なんてありません。単に好きだから、それに正しいと思っているから、行動します。それに対して、私はいつもほかの人も自分のことさえ疑っています。「こんなことしたら、気に入られるかな」とか「こんなこと言ったら、相手喜ぶかな」とか、他の人に気に入られるよう行動してしまいます。下心無しに生きたことがありません。二人とも不器用でも、シャイボーイはそれを何とも思わずありのままに人に接します。反対に私はそれを恥ずかしいと思、飾った自分であることに慣れていたようです。

ただ「あいのり」の旅で射止めたのは好きな彼女の心だけでなく、シャイボーイの素直^{すなお}で正直な生き方は、私の心も動かしました。不器用な私ですが、周りの人にどう思われるのか気にせず、正直な自分を人前に出してみようと思、今日ここに来ました。これは長い道の第一歩なんです。

私のつまらない話に耳を傾^{なだれ}けてくださってありがとうございました。

光に向かって

光。光は不思議なものだと思いませんか？

古代の人たちの中には生きるため、光や太陽を追いかけた神話が多いです。同じように現代の人たちも光に憧れています。人はなぜ、いつも輝いている物や人に惹かれるのでしょうか？それは多分、誰でも光りたいという夢を持っているからだと思います。

私の国には、「ピカピカ少女」という特別なプロジェクトがあります。「ピカピカ少女」は、自分の専門分野で成功した女性100人をインタビューし、彼女らの物語をビデオで伝えるプロジェクトです。

「ピカピカ」という言葉に好奇心を持って、私はビデオを見ました。一番印象に残っているのは、「ヤンヤン」という22歳の女の子の話です。

四年前、ヤンヤンはなにも知らずに大都会に出てきて、学歴なし、経験なし、お金なしの「ボロボロ少女」でした。けれど今、彼女はある方法で、優秀なマーケティング会社の社長になり、フォーブスリストにまで載りました。

ヤンヤンの人生を変えた秘密は、アルバイト先の上司に言われた言葉でした。「自分しかできないことを探さない！」と。ヤンヤンはそれを実行しながら業界のトップにたどり着き、ピカピカと輝く女性になりました。

「自分しかできないことを探す」という言葉で、私は目から鱗が落ちました。なぜなら、私の生き方はそれとは正反対でした。

皆さんも同じ経験があるかもしれませんが、私は理想的で「優秀な自分」になるために、自分の欠点ばかり探していて、そのために自信を失くしたり、自己否定したりしていました。まるで、心の中にある無限の闇の中に入ってしまったようでした。

ヤンヤンの話に出会った時、ヤンヤンの生き方は、私の闇に光を与えてくれて、前に進む方向も示してくれました。自分しか持たない才能を発見し、それを伸ばすことこそ、自分が光る方法です。そう考えると、自信も、光に向かう決心も、情熱も、自分の中で「ピカピカ」と光始めたのです。

自分しかできないことを探していて、ふと気が付きました。「ピカピカ」になれるのは日本語をペラペラ話している時の自分だと思いました。その自分はなんと、父にまで影響を与えていました。

昔の父なら、私のことを嫌な顔でこう紹介します。「これはアニメを見てばかりいるうちのバカ娘だ。」

でも今の父はこう言います:「日本語の勉強ばかりしているバカ娘だ。」同じバカ娘ですが、今の父はいつも目を細めて、嬉しそう言います。それを見て、「お父さんの目を照らすのは、私の光かも」という妙な達成感が感じられます。

ここに座っている皆さんも、私と同じように、日本語が心の底から大好きだと思います。日本語を一生懸命勉強して、この舞台で輝くチャンスをもたらえた私たちは、とても幸運です。考えや思いをスピーチに込めて、日本語という美しい言語の魅力を自分しかできない方法で伝えることは、私たちの素晴らしい才能ではないでしょうか。

この舞台に立っているのは、「ピカピカ」の自分になるための、私たちの一歩だと思います。私たちは、光になるための道を進んでいます。

一緒にがんばって、ピカピカに輝いて、世界を照らしましょう！

日本語頑張ります

おそらくここにいらっしゃる皆さんは、日本語を学ぼうとする人はアニメやJPOPなど日本の文化に興味がある人が多いと思うのでしょ。でも、私は日本語を始めたとき、他の言語のクラスが取れなかったという理由だけで、日本語を習い始めました。それがどういうわけか1年後の春に、私は日本に留学していました。

何かを始めると、できたら満足するレベルまで達成したいと思うタイプなので、なんとなく日本に行くことにしました。だから、留学から何をきたいすればいいかわかりませんでした。ただ留学を終えて、自分を変えてくれるいい経験だったと思っています。今日はその経験についてお話しします。

まずある学部のオリエンテーションに参加したとき、簡単な日本語を使ったゲームがありました。私は言葉が理解できなくてあまり参加できなかったの、一緒にいた日本人に「他のゲームをした方がいい」と言われました。その時に、とても恥しく思い、自分の限界を知りました。「一年以上日本語を頑張ってきたのに、むだだったの」と落ち込みました。でも、その時に考え方が変わり始めました。その経験は悪いことではなくて良いこと捉えるべきだと気づきました。

そして次に、日本人の友達と浅草に行ったり海に行ったりした経験です。友達は、わかりにくくて、面倒でもずっと私と日本語でしか話しませんでした。私の変な日本語を一生懸命聞いてくれて、理解してくれようとして、一緒に笑い、一日を楽しみました。「私の日本語は変なのに、一緒にいる友達は私と時間を過ごしたいし、話したいしと思っている、頑張るしかない」と思いました。それで、言葉は十分でなくても、わかり合おうと努力する友人の大切さを感じました。

最後はレストランでしたバイトの経験です。ある日、友達と気づかず高級レストランに入ってしまった。おいしかったのはいいのですが、値段を見て泣きながら食事をしました。ところが、会計の時、レストランの店長は私とたちばなししているとき、突然バイトをすすめてくれました。このバイトのおかげで、大学では会えない人たちにも会えました。おおぜいのおばあさんから「あら、ハンサムね、日本語もできて、お仕事頑張ってるね」とよく言われました。お世辞とわかっていても、応援してくれる人の言葉が私の心を温めました。

特別な理由なく行った留学ですが、自分を成長させてくれるいい経験でした。いろいろな人と出会って日本のことや人についてもっと知りたいと思いました。何よりも私のことを理解しようとしてくれた人たちと、もっとうまく日本で話したいと思う気持ちが強くなりました。彼らをびっくりさせるぐらい日本語が上手になりたいです。これからも頑張ります。

無常を楽しむ

皆さんは、春の終わりに桜の花びらが舞い散るのを見て、ふと、悲しい気持ちになったことはありませんか。また、夏の終わりに、道のあちこちにおちている蝉のはい色の死骸に生き物の儚さを感じたことはありませんか。季節の移り変わりなど変化はしばしば人に虚しさを感じさせます。なぜなら、人間というものは、目の前の幸いが消えることを恐れ、楽しい時間が永遠に続いてほしいという願いを持っているからです。しかし、変化が止められないということは本当に虚無感しか残らないのでしょうか。

今日、私は「無常」という仏教の教義について皆さんにお話ししたいと思います。「無常」というのは、世の中全ての物事は常に変化していて、一瞬といえども同じ状態は続かないということです。つまり、移り変わりのない存在はないのです。「無常」は生き物の生死だけではなく、時間の経過と共に起きる物理的な変化も含め、この世のすべてを指しています。

実は、昔から「無常」という思想は日本文学作品に表されていました。例えば、「平家物語」は平家一門の栄枯盛衰を通して読者にこの世の儚さを味わわせます。栄華を極めた平氏一族が没落してしまった「盛者必衰の理」は強いノスタルジアを伝え、繁栄を極めた戻れない過去と、哀れな今日の対比は読む者の心を強く打つものがあるでしょう。また、鴨長明が著した「方丈記」では、地震、火事など人間が予測できない自然災害の発生が「無常」を表しています。自然における避けられない変化は「無常」が大自然の法則だということを語っているようです。

ここまで聞くと、皆さんは「無常」ということは非常に大きい変化に限られていて、私たちの日常生活と掛け離れていると考えるかもしれません。しかし、実は、私たちの身の回りにも「無常」は少なくないのです。例えば、買ったばかりのイヤホンが片耳だけ残ってしまうのも、お正月に美味しい料理をたくさん食べてつい太ってしまうのも、年を取ると毛が薄くなってしまうのも「無常」の本質を表しています。「無常」は「一際不変なことはない」ため、「誰も、明日どのような変化が起こるか分からない」、「分かっているけど変化を避けられない」ということです。

このように「無常」はネガティブな印象があるようです。確かに、突然、不運な事が起こるかもしれない未知を恐れることも納得できます。しかし、「無常」というのは不幸なことばかりではありません。家族との死別、恋人との別れ、体の衰えなど悲しさや寂しさを伴うことも「無常」ですが、それに対して、生命の誕生、新しい出会い、体の成熟など喜びや嬉しさを伴うことも「無常」です。変化があるからこそ、サプライズのような喜びがいつも人を感動させ、今まで経験したことがないほど素晴らしい幸せを見つけられるのかもしれません。つまり、変化が予測できないからこそ、自分の人生に数え切れない可能性が生まれるのだと私は思います。

出逢いは別れの始め、いくら楽しい宴でも終わらないわけではありません。実は、私も今年 UBC を卒業し、四年間住んできたバンクーバーとここで出会った友達に別れを告げなければなりません。しかし、終わりがあるということを意識しているかぎり、悲しくなることはありません。終わりがあるからこそ、新しい変化が訪れるのです。私の場合は卒業後イギリスの大学院に入ることになり、これからの新しい生活を楽しみにしています。「無常」がこのように始まりと終わりを繋げてくれるからこそ、私たちの人生も前に進めるのではないのでしょうか。

落ちた花びらは肥やしになり、翌年の満開を待っています。死骸になった蝉が残した幼虫は土の中で、次の夏のための生命力を蓄えています。未知に期待を抱き、「無常」が得と損失両方あることが分かれば、「無常」も楽しめます。

ご清聴ありがとうございました。

ピンクとブルー

皆さんは、ピンクとブルー、どちらが好きでしょうか。正直に言えば、私はピンクの方が好きです。でもある日、父に私のピンクのパソコンケースを見られて、こう言われました。「今度はピンクを選ぶな！女っぽくて可笑しくない？」そして私がブルーのパソコンケースを買ったら、父は満足しました。でも、ピンクはただ色の一つなのに、なぜ「女っぽい」と思われていますか。「男らしい」色はブルーなのでしょうか。

家事、料理、化粧、育児、そのような言葉を聞くと、どちらの性別が頭に浮かびますか。仕事、冒険、医者、研究では、どちらの性別でしょうか。私はたまに「お母さんは料理するのが上手でしょうか」と聞かれます。「あ、実は父が家事をしているのですが」と答えたら、相手は必ず驚きます。「じゃあお母さんは何をしますか」とまた聞き、「仕事ですよ」という返事にさらに驚きます。「珍しいご家族ですね」という評価をよくもらいます。これは性別のステレオタイプの影響です。一つ一つの仕事や行為に性別をつけ、それを基準として女らしさと男らしさを定義し、人々に強要します。長い月日を経て、このステレオタイプがみんなの潜在意識に深く刻まれてきました。その結果、「女っぽい男」という言葉が使われ始めました。反対語の「男っぽい女」を調べてみれば、「決断力が優れている」、「感情は後回し」、「単純な思考」というような言葉が見られます。それでは、一般的によく言われているような、「男性は仕事に集中すべきだ」、「男のくせに化粧なんかして」、「女性は感情に支配されていて、考えすぎで決断力がない」。それは、本当にそうでしょうか。

女性は、まだそのようなステレオタイプに苦しんでいます。世界経済フォーラムによると2019年の男女平等指数では、カナダは19位で、日本は121位でした。女性の就業率が上昇しているといえ、男女賃金格差もまだ大きく、働く女性が公平に扱われていないことがわかります。そのため、「仕事=男性」という根強い固定観念を変えないわけにはいきません。

しかし、固定観念に影響されているのは女性のみでなく、男性も自由だというわけではありません。それは、女性に適用されるステレオタイプは、男性にも適用されるからです。女性は料理すべきで、男性はキッチンに入ってはいけない。女性は化粧すべきだが、男性はメイクしてはいけない。このような思考は、男性に対する足かせになっています。これは、日常生活にも見られます。女性の友達と一緒にレストランに行ったら、請求書はいつも私に渡されます。つまり、デート代を払うのは「男らしい」と思われているというわけです。どのような理由でも、不公平で失礼です。奢ることを期待されている男性は経済的プレッシャーを感じる一方、奢られる女性も差別される感じがするかもしれません。

このような不公平はそのまま放置されるべきではありません。従来 of 習慣だからそれをそのまま適応するという考え方も決して正しくはありません。幸いに、男女差別は既に世界中で社会問題になりました。特に若い世代は、長年圧迫されている女性の苦境を認め、性差別をなくすことに努力しています。それに加えて、数多くの国も男女平等の法律を制定し、女性の社会的地位も次々と高まってきています。政府と国民の共同の努力で、男女平等の実現に寄与します。女性にとっての公平は、男性にとっての公平です。だから、みなさんも自分が好きな色を自由に選んで、他の人にも選ばせてあげましょう。

自分という小さな花火

夏の風物詩といえば、やはり花火ですよね。花火大会で見られる、パアーンと夜空で咲き誇る花火も、手元で小さく開く花火も、夏に欠かせないものです。私は小さい頃から大きくて、派手な打ち上げ花火をたくさん見てきましたが、去年の夏、日本で初めて、線香花火と出会いました。見ている人たちを驚かせて、空いっぱい広がる華麗な打ち上げ花火とは違って、線香花火は小さくて、とても地味なものでした。でも私は、線香花火が燃える姿にとっても惹かれました。

物理学者で随筆家としても知られる寺田寅彦は短編集「備忘録」の中で、線香花火についてこう述べています。『この線香花火の一本の燃え方には、「序破急」があり「起承転結」があり、詩があり音楽がある。』と。線香花火は火をつけてから火の玉が落ちるまで、四回姿を変えます。「起承転結」はまさにこの四つの段階にふさわしい描写です。はじめに和紙に包まれた小さなふくらみに火をつけると、火の玉は「牡丹」の花のように徐々に膨らんで、大きく開きます。まるで命が宿っているようです。ここまでが「牡丹」と呼ばれ、燃え続けながら、「松葉」の段階に入ります。パチッ、パチッと音を立て、「松葉」のように元気よく火花を散らします。それからだんだん音や火足が垂れ下がって、長く柔らかく火花を散らします。まるで「柳」の枝のように風になびきます。そして、最後に、短くて細い火花が一本、また一本と静かに落ちていきます。それが「散り菊」と呼ばれる最後の段階です。火の玉が光を失った瞬間に、線香花火も終わりを迎えます。

日本では線香花火は、よく人の一生に重ねられてきました。「牡丹」は、この世に生まれ落ちて、すくすくと成長していく私たちの子供時代です。一番華やかな「松葉」は結婚や家族の誕生を表していると言われますが、それだけではなく、人生のいろいろなことに挑戦する時期でもあります。仕事や子育てが一段落して、生活が落ち着いていく時期は「柳」で、残った力を最後まで燃え尽くす「散り菊」は晩年を表しています。私の人生に置き換えれば、今は「牡丹」の時期を過ぎて、「松葉」に入ってきたのかなと思います。今までの人生を振り返ると、別にたいしたことはしてきませんでした。ありがたいことに一応順調に自分らしく生きてきたと思います。

今、大学四年生である私は、もうすぐ学生時代を終えて、新しい段階に入ります。この先の人生に迷いを感じたこともあります。打ち上げ花火のように人生を華麗に咲きたい人もいると思いますが、私はやはり線香花火のような人生を送りたいです。私たちの人生は線香花火のように短くて儂いですが、この短い人生のいろいろな変化を楽しんで、一つ一つの瞬間を大切に、自分らしく燃え尽きればよいと思います。だから私は、今、この瞬間もみなさんの前に立って、「自分」という花火を散らして、みなさんに見てほしいと思って挑戦しています。ご清聴ありがとうございました。

孝行の仕方

皆さんにとって、親はどんな存在かについて考えたことはありますか？生命を授けられ、感謝すべき存在だと多くの人々は認識するでしょう。しかし、孝行を評価する基準は国によって大きな違いがあります。今日は、日中両国に見られる「親孝行」の見方について話したいと思います。

中国の「二十四孝」という昔話の中に孝行息子郭巨の話があります。郭巨という農夫は母と妻と三歳の息子を養っていました。貧しい生活の中、郭巨の母は孫の為にわずかな食事を分け与えていました。それを見ていた郭巨はわが子を土に埋めようと決心し、穴を掘ったところに天から授かった黄金の釜が現れました。皆さん、母を助けようとした郭巨の志は確かに感動的ですが、何故子を死なせるほどの行いは天をも感動させた孝行として伝えられたのでしょうか。その根底はやはり中国の伝統的価値観にあると考えられます。

孔子が書いた「孝経」には、「身体髪膚、之を父母に受く。父母之を生む。続くこと、焉より大なるは莫し」という節があります。これは、私達の存在を含める全ては親から授かったものであり、何よりも大切な親を大事にすべし、ということを意味します。つまり、孔子の教えによって、親は壇上に立たせられ、子供に信仰される絶対的存在となりました。更に、郭巨が妻にこう言いました、「子供はまた授かるだろうが、母親は二度と授からない」。これでは、まるで人の子を再生可能な所持品として扱うのと何ら変わりはありません。このような理不尽な理由で懸命に生きようとしていた幼い命を奪って、母親を救おうとしたことは孝行に相当する行為とは言い難いと思います。しかし、残念なことに、「孝経」の古い思考を鵜呑みにし、自分自身やわが子を犠牲にしかねない盲目な人がいまだ多くいます。私は「親こそすべて」のような極論を再び考え、「孝行」を再定義すべきだと思います。

一方、日本には郭巨の話と極めて似た、「樞山節考」という棄老伝説を題材とした作品があります。食料不足の時代、三人の息子と一人の娘と暮らす主人公の辰平はこれから生まれてくる孫の為に、母のおりんを樞山へ捨てに行った話です。背景設定は郭巨の話とほぼ同じですが、何故彼は真逆な選択をしたのでしょうか。それは日本社会における「人様に迷惑をかけない」という信条と関係があると思います。

人に迷惑をかけるということは、その人の生活に何らかの影響を与えると思われるかもしれませんが、他人の暮らしに変化を与えようとする考えそのものがおこがましいと多くの人々は考えているかもしれません。その結果、高齢化社会に直面する中、年老いた親は子供に負担をかけたくない傾向が強くなっているようです。おりんも、又、自分のような厄介者の面倒よりも曾孫を生かすべきだと判断しました。おりんの、世話を掛けたくないという親心を聞き入れることこそが真の孝行だと、辰平はそう信じ、母との断捨離を決意したのでしょう。更に、老人を山に捨てる風習がある辰平の村では、常識を破ることで白い目で見られるという社会的圧力も彼が母を背負って山に入った理由の一つだとも考えられます。

郭巨と辰平、この二人の孝行はそれぞれの国では見本として伝わっていますが、現代社会に適しない部分も多くあります。もし今、親の命と将来の子供の命を天秤にかけるとすれば、私にはできないと思います。そのような孝行の仕方に悩む現代に生きる私達は先人の孝行を考え直し、それぞれの正しい孝行を探すべきではないでしょうか。

本能に任せて

皆さん、こんにちは。エリオットと申します。カナダの大学に留学している四年生です。英語も日本語も母語ではない自分ですが、今日は言葉を学ぶことについて語りたいと思います。

僕は、とくに日本語の授業を取ったこともなければ、日本語の教科書を開いたこともありません。なのにどうして日本語ができるの？と聞かれるたび、自分もよくわからないのですとずっと答えてました。その理由を一生懸命考えた結果、ある日のことを思い出しました。それは僕がまだ小学校四年生で、僕の可愛い弟が産まれて一年も立たない、その日のことでした。家族と一緒に水槽の中の色鮮やかな魚を鑑賞していると、好奇心旺盛な弟が魚を指さしているところを見て、母は he と、地元の言葉で魚という意味の単語を言いました。それを聞いて、まだ話すこともできない弟がその発音を真似しようと、he と声を出しました。これは he だよ！これは魚だよ！と、言い続けた母を見て、弟も魚を指さしながら he と声を出し続けていました。

僕はこの一部始終を見て、考えました。弟は何回も母の発音をまねしながら魚を指さしていたので、たぶんこれで魚のことは he と呼ぶことを覚えたのでしょうか？そして僕は気づきました。赤ちゃんはこうやって母語を学ぶんだ！そして、こうやって言葉を学ぶのは、人間の本能だったんだ！その日、僕の人生を大きく変える、とても大切なことに気づきました。

その年、小学校で英語を学び始めて、僕は日本のテレビが好きになり、毎日何かしらの日本語を見聞きするようになりました。日本語の歌を聴いて、字幕付きの日本のテレビ番組をずっと見ていました。それから何年か経ち、僕はあることに気づきました。いつの間にか、もともと意味も知らなかった歌詞が分かるようになり、日本のテレビを見るとときも字幕を見ずに、会話の内容が理解できるようになりました。そして、僕が15歳の時、父と初めて日本へ旅行に行きました。そのとき、僕が難なく、ガイドさんや現地の人と会話ができることに父も自分自身も驚きました。

それに対して、毎日宿題をたくさんやってた英語は片言すら話せませんでした。一体なぜこんな差が出たのかと、頭を絞って考えた結果、またその日のことを思い出しました。言葉を学ぶ人間の本能で、まだ赤ちゃんだった弟が周りから聞き続けるだけで母語を身につけていたことを思い出しました。

英語を学校で学ぶ時は、毎日のように単語を調べたり暗記したり、音読したりしていました。対照的に日本語に関しては、勉強することを全く意識せず、単純に周りから日本語が耳に入ってくることを楽しんでいました。英語を必死に覚えようとするよりずっと効果的だった日本語の学び方は、弟が母語を身につけた時のように、人間の本能が働いていたのでしょうか。

ここにきていらっしゃる皆さんも、自分の母語を身につけた時は、当然辞書をめくる

ことも文法問題集で勉強したりしたこともありませんでしたよね？ただその環境の中において、人の発音をマネし、知らない言葉を周りの実物や状況と関連付けて意味を模索し、そして理解した言葉を試しに話してみる、それを繰り返して母語を習得したのでしょうか。このすべてにおいて、人間の本能が働いてると、僕は信じています。

皆さんはどう思いますか？今後、新しい言語を学ぶときは、その言葉の環境を作って、誰もがそもそも持っている、言葉を学ぶ本能に任せてみてはいかがでしょうか？

ご清聴ありがとうございました。

死んでも、生き続けます

君の大好きなこのメロディー
大空へと響けハーモニカ
天使が抱いた窓枠のトワレ
ねえそのバイザー、ジュキレいかしら

皆さん、この歌を聞いたことがありますか？私は何度も繰り返して聞きました。この歌は姉が病気に苦しむ弟のために書いたものです。弟は亡くなっても、弟のことを忘れないよう、という思いで書きました。私はこの歌を聞いた時、心があたたかくなり、やさしい気持ちになります。そして、生きること、死ぬことについて深く考えます。

これから、ある女の子の話をしていきます。その女の子は先天性の心疾患で、生まれつき体が弱く、病気がちでした。小学校 3 年生のとき、体育の授業で走って転び、意識を失ってしまいました。医師が検査した結果、彼女の状態は非常に危険で、すぐに入院し、手術を受けなければなりません。女の子は、いつか病気で自分が死ぬんじゃないかと恐れていた

ので、入院したばかりの時はよく泣いていました。女の子は入院した病院には、彼女の 7 歳年上の玲子(れいこ)という女子がいました。同じように病気に苦しんでいた玲子は、女の子とは反対に、明るくて元気でした。

女の子はある時診察を受けた後に、彼女は「私はもう死ぬの。まだ 8 歳なのに、死にたくない。」と看護師に泣きつきました。その時、玲子は「笑って、あなたの笑顔が太陽よりも暖かいことを知っているよ。」と女の子をなぐさめました。女の子は泣きやみ、その日から病気と向きあい、強い意思を持つようになりました。

手術の日、玲子は女の子に「絶対大丈夫だよ。退院したら、夏と一緒に海を見に行こうね。」と言いました。女の子の手術は成功し、最終的に彼女は学校にまた通えるようになりました。この話にてでくる病気の女の子は、私です。今では胸に傷跡があることと、ときどき少し痛みを感じる以外は、普通の人となんら変わりありません。しかし、残念なことに、玲子さんと海を見るという約束は実現しませんでした。彼女は病気が治らず、十六歳の若さで亡くなってしまいました。それを聞いた時、私はとても悲しかったです。玲子さんの両親に聞きましたが、彼女は自分の角膜を寄付したそうです。きっと彼女の角膜を受けとった人はきれいな景色を見ていることでしょう。玲子さんは自分のように病気で苦しむ人を救いたいという思いがあったのかもしれませんが。

私が気持ちが落ち込み、望みを失ったときに、玲子さんは励ましてくれました。彼女は短い人生の中で他人に希望を与えただけでなく、なくなっても人に貢献し、きっと感謝されたことでしょう。死は必ずしも暗いわけではありません。誰かの死は私たちに生きる意味を与えてくれるものだと思います。玲子さんはもうこの世にいませんが、私の中で生き続けています。

ありがとう、玲子さん。あなたの励ましのおかげで、私は落ち込むことや悲しむことをやめて、希望を持って生きています。私は、いくら時間生きられるかわかりません。でも、私がこの世を去る時も、両親にもらった命で多くの人や社会に十分に貢献できたと思えるよう、これからも生き続けます。

みなさん、いま、もう一度自らが生きていることに向き合ってください。
ご清聴ありがとうございました。